

## 一億総白痴化

J J I S X A / 池

「昔テレビで一億総白痴化、今はyoutubeで」という題の文章を見た、内容は次のようなものだ。

…昔、テレビが普及し始めたころ、評論家の大宅壮一氏は、一億総白痴化という言葉で、テレビが人間の思考力や想像力を低下させていると警鐘を鳴らしました。

このテレビよりも誘惑度の高いのが、インターネットの世界です、テレビや漫画は、つい惰性で見るので無駄な時間を過ごしがちです、インターネットは、それ以上に惰性で見てしまうことが多いのです。

数年前、イギリスの中学生がSNSに時間を取られ、読書をしなくなったという記事が載っていました、これは、日本でも同じ事情になりつつあると思います。

では、どうしたらいいかという、これはやはり自己コントロールによる、生活とインターネットの共存しかないので、禁止というのは、小学校低学年のころはあり得ますが、高学年や中学生の子に禁止というのは、問題を先送りするだけになります。

誘惑に負けるというのは、子供だけの問題ではなく、大人も含めた人間の本質的な問題です、それを克服するのが、広義の教育です。…

確かに言えていると思います、それにしても、テレビは、今も一億総白痴化に貢献？しています、偏向放送は当たり前、出演の芸能人たちが、芸では無く、ただ自分たちが楽しんでいるような番組も多い、民放は、NHKとは違い視聴者から直接視聴料を取っていないが…

妹（浅草で英会話学校を経営している）からの情報だが、「Nomophobia」という単語、Nomophobiaは、No-Mobile-Phobia（恐怖症）からの造語のようだが、「携帯電話が手元ないと不安になってしまう恐怖症」のことを言うようだ、日本でも数多くいると思う、妹曰く、「最近では自分が持っている辞書に無い言葉が多くなってきた」と付言している。

スマホ依存は病気だ、具体的には、「学生、学童等は、スマートフォンの使用を続けることで昼夜逆転するとか、成績が著しく下がるなど様々な問題が起きているにも関わらず、使用が止められず、スマートフォンが使用できない状況が続くと、イライラし落ち着かなくなるなど精神的に依存してしまう状態」のことだ、先の、「Nomophobia」が良く表している。

ここ数年、若者の間で「急性内斜視」になる人が増えているようです、急性内斜視とは、近くを長時間見続けることで、目が内側を向いたまま固まってしまう病気で、特に医師たちが警鐘を鳴らしているのが、スマートフォン、今、詳しい研究が進められているようです。

道交法の改正で厳罰化されたので、運転中の、携帯電話・スマホの使用は減ったし、自転車運転中や歩きスマホも減ったものの、まだ皆無とはいかない。

バスの中とか電車の中では、スマホの画面を指でなぞっている光景は、余りにも多く、異様だ。

若いママさんたちが、保護者の立場をすっかり忘れて、連れてくる幼い子供達には目もくれず、スマホに熱中しているのは当たり前の光景か？子供が事故に巻き込まれても不思議では無い。

テレビもスマホもインターネットも、一億総白痴化に拍車をかけているようだ。